



JAL不当解雇撤回ニュース

No 111号 2012.2.6
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

1月30日にJAL本社前宣伝行動 107名が参加 改めて不当解雇撤回と原職復帰を求めました

1月30日寒風吹きすさぶ中、107名の支援者が集まり、今年初めての本社前宣伝行動を行いました。また2月には経営陣の刷新、そして3月には判決が予定される中、原告団と国民共闘は、改めて日本航空に対し、165名の不当解雇を撤回し、早期に問題を解決するよう要求しました。

春闘に そしてJALの不当解雇撤回で奮闘したい

＜全労連 大黒議長＞

これまでの裁判で、この解雇が道理のないものであることを会社自らが証明しました。判決を見るまで最後まで頑張りたい。今国会で労働者派遣法の改悪が審議されようとしています。派遣法は企業の解雇の自由化がすすめられていく法案です。



春闘で私達は、誰でも月額1万円以上、時給1000円の要求をしています。今必要なのは労働者の賃上げと、大企業の内部留保を国内に還元して景気を回復させることです。春闘の闘いとともに、解雇自由を許さないJALの解雇撤回裁判を一日でも早く解決させるため奮闘したい。

JALの不当解雇問題は政治の責任で解決すべき

＜全労協 金沢議長＞

整理解雇の不当性については、裁判の中で示されたと思います。支援の広がりや、全国の職場で雇用不安で苦しめられている働く労働者の共感を得るからこそです。



JALは9月に株の再上場を目指していますが、解雇者をほったらかして上場などという事は認めてはいけません。JALの問題は国の関与が大きく、政治の責任です。今春闘の中では、労働法制の問題、消費税の問題等様々な課題がありますが、JALの問題は1日も早く、政治の責任としてけりをつけなければならない。運動を広げて戦線を大きくして頑張らしましょう。

安全で物を言ってきた私達を職場に戻して！

＜客乗原告 今村さん＞

私たちの客乗職の組合は1974年から闘うようになりました。その後30歳定年の撤廃、結婚後乗務が可能となり、労働条件の回復を勝ち取りました。



その頃日本航空は客室乗務員の組合の分裂に乗り出し、不当労働行為が横行し暗い職場になりました。そして羽田沖事故、123便事故へと続いていったのです。こうして事故を経験し、安全を守るため物を言ってきた人々を解雇しました。一日も早く職場に戻してください。そして信頼される日本航空にしましょう。

理不尽な仕打ちは直ちに撤回して下さい！

＜乗員原告 谷口さん＞

赤穂浪士が仇討ちしたのはなぜか？吉良家には何のお咎めもなし、浅野家はお家断絶となりました。非常に一方的で理不尽な仕打ちを受けました。これに対して抗議をしたのです。ここには、私達と同じものがあります。経営破綻した会社の役員は全員子会社に逃げ、その一方で、私たち社員には「経営破綻したのだから希望退職に応じる、応じなければ整理解雇する」というのです。理不尽に抗議する赤穂浪士と心は同じです。こうした理不尽を直ちに撤回し、我々を職場に戻して下さい。

